

先週の説教要旨

『イエスを見るために』井上隆晶牧師
I ヨハネ 1:1~4、ルカ 19:1~10

①【ザアカイの善い憧れ】エリコの町にザアカイという徴税人がいました。徴税人たちは同胞から嫌われ、仲間外れにされ、礼拝共同体にも加えてもらえませんでした。ザアカイはそんな徴税人の頭で、お金持ちでした。このザアカイが「イエス様がどんな人か見ようとした」というのです。それは、自分と同じ徴税人を弟子にしている人がいるという噂を聞き、そのイエスというお方に興味が湧いたのでしょう。イエス様を見るために出かけたのですが「背が低かった」(19:3)のために群集に遮られて見ることが出来ませんでした。彼は走って行って先回りし、いちじく桑の木に登り、その葉の影からイエス様を見たのです。私はこの物語を読むと、エデンの園のアダムを思い出します。その昔アダムは神の顔を避けて、園の木の間に隠れましたが、ザアカイはその神の顔を見るために木に登りました。ここに人間の回復の始まりを見ます。ザアカイの背の低さは、私たちの弱さ、罪深さ、未熟さを象徴しています。しかしザアカイのどうしてもイエス様を見たいという望みは、彼の弱さを克服しました。私たちがどんなに罪深くて、それは神と出会うための障害になりません。本当の障害は、罪深さではなく、キリストに期待しないことなのです。

②【キリストを見ることの重要性】この物語には、「見ようとした」「見る事ができなかった」(3節)「見るために」(4節)「上を見上げて」(5節)「これを見た人たちは」(7節)と「見る」という言葉が5回も繰り返されています。人間の五感「視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚」は

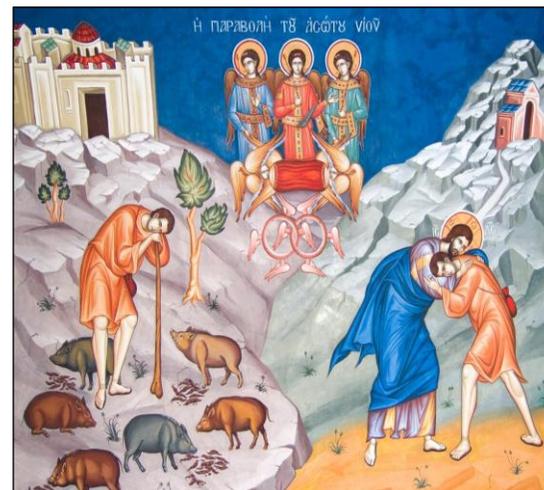
もともと、神を知るための道具として造られました。しかしそれは神以外のこの世に向けられるようになりました。「女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け」(創世記3:6)と書かれています。善悪の知識の木とは「この世」の象徴です。最初の墮落はこの世を「見る事」から始まったのです。修道士たちは「悪魔は穴が空いたところから入って来る」といいましたが、目からは汚れた映像、耳からは汚れた言葉、口からは過度の飲食が入って私たちの魂は汚れてしまいました。しかし教会に来ると目からキリストの聖像イコンが入り、耳には賛美と祈りの声と神の言葉の朗読が入り、鼻には乳香の香り、口には聖体が入ります。教会に帰ると私たちの五感が神に向かって正しくリセットされるので、私たちは本来の人に帰ることができるのです。私たちは神を見ることの絶大な効果を知ろうとしません。この世の物が自分を満たすと思って、神よりもこの世の物を見ようとしみます。しかしイエス様はいちじく桑の木の下まで来ると足を止められ、上を見上げて言われました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」(19:5) 驚くべきことに、イエス様の方からザアカイに声をかけられ、交わりを求められました。主は彼の名だけでなく、彼がどんな人間か、どんな罪を犯したかをすべて知っておられながら彼との交わりを強く求められたのです。ザアカイは自分がイエス様を求める以上に、イエス様が自分を求めていたこと、自分が知る前から、自分は知られていたことを知りました。ザアカイはうれしかったと思います。彼は急いで木から降りてきて、喜んでイエス様を家に迎え入れました。このように私たちがキリストを見た時、キリストも私たちをご覧になり、互いの視線が会うのです。その時、大いなる祝福が入って来るのです。↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957年12月1日 教会設立 2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17
TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120
Eメールアドレス: miyakoch@eagle.ocn.ne.jp
ホームページアドレス: <https://miyako.jima-church1.com>
郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所
主任牧師 井上隆晶

2025年2月16日 No.1807



《失われた息子》

都島教会の2024年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」(Iコリント3:11)

2024年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均27名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 会堂建築のための具体的な準備をします。
- 4 皆で教会を建てる意識を育てます。